

日本プライマリ・ケア連合学会 専門医認定委員会

CSA（Clinical Skills Assessment）の評価の概要について

1. 家庭医療専門医認定試験における CSA の評価について

本評価では、主に診察とコミュニケーション技法を評価する。一部、臨床シナリオに関する意思決定を踏まえたコミュニケーションなども評価に含まれる。受験者は小児・成人・高齢者が抱える日常診療で頻度の高い疾患や症候に対して、ライフサイクルや個人のコンテキストを考慮した対応を7つのステーションで評価される。疾患がオーバーラップしていることもあるが、各ステーションの評価の観点は異なる。合否判定は、主に概略評価を用いて実施する。

2. 日常病

概略評価の観点

- 日常診療で頻度の高い症候に対して、病歴と身体所見、持参した検査結果などからエビデンスに沿った判断と適切なケアを提供できるかを評価する。
 - ✓ 適切なケアとはエビデンスと患者の思いや背景も踏まえた個別性のあるケアを指し、現段階のケアだけでなく、再診時期やそれまでの過ごし方等も含めたケアを提供できることを指す。

取り扱う疾患・症候及び対応

- 疾患
 - 循環器：本態性高血圧、二次性高血圧、慢性心不全、慢性心房細動、腹部大動脈瘤、下肢静脈瘤、狭心症、陳旧性心筋梗塞、僧帽弁膜症
 - 呼吸器：副鼻腔炎、中耳炎、急性上気道炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、睡眠時無呼吸症候群、肺炎
 - 消化器：逆流性食道炎、消化性潰瘍、過敏性腸症候群、癒着性イレウス、胆石症、ウイルス性肝炎、肝硬変、アルコール性肝障害、脂肪肝、慢性膵炎、鼠径ヘルニア
 - 腎泌尿器：慢性腎臓病、腎盂腎炎、過活動性膀胱、前立腺肥大症、勃起障害、膀胱炎
 - 婦人科：月経異常、更年期障害、妊婦・授乳婦への投薬、乳腺炎、骨盤内感染症、
 - 代謝内分泌：甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、糖尿病、高尿酸血症、脂質異常症
 - アレルギー/膠原病：アレルギー性結膜炎、アレルギー性鼻炎、リウマチ性多発筋痛症

- 血液：鉄欠乏性貧血
- 神経：脳梗塞、パーキンソン病、パーキンソン症候群、片頭痛、緊張性頭痛、群発頭痛、髄膜炎
- 整形/皮膚：皮脂欠乏性皮膚炎、蜂窩織炎、皮膚白癬症、変形性膝関節症、腰痛症、骨粗鬆症
- 症候
 - 頭痛、耳痛、咳、鼻汁、咽頭痛、体重増加・肥満、体重減少・るいそう、倦怠感、めまい、便秘、下痢、食欲減少、胸痛、動悸、嘔気/嘔吐、呼吸苦、腹痛、胸やけ、腰痛、歩行障害、四肢の麻痺/しびれ、頻尿、血尿、尿潜血陽性、尿蛋白陽性、便潜血陽性、月経異常、関節痛、皮膚のトラブル

3. 患者教育

概略評価の観点

- 日常診療で頻度の高いセルフケアが病勢を左右するような慢性の健康問題に対し、患者中心という点を重視しつつ、患者の行動変容を促すようなやり取りにおいて、エビデンスに基づいたアドバイスをを行い、より好ましい意思決定を患者側にしてもらうことができるかを評価する。

取り扱う疾患・症候及び対応

- 疾患・症候及び対応
 - 糖尿病
 - 喫煙（禁煙後の再喫煙も含む）
 - 高血圧
 - 肥満
 - 慢性心不全
 - 慢性腎臓病
 - COPD、気管支喘息
 - 慢性頭痛
 - 慢性腰痛
 - 変形性膝関節症
 - ◇ 疾患・症候を悪化させる生活習慣
 - 食事回数の異常、過食、つまみくい
 - 過度/過不足な運動習慣
 - 健康食品やサプリメントへの依存 など

- ◇ 生活習慣に関わる環境因子
 - 多忙
 - 独居
 - 喫煙環境 など
- ◇ 生活習慣の偏った意識や改善への低い動機づけ
 - 食事回数の異常
 - ある食物のみを摂取するダイエット
 - 生活習慣改善への自信あるいは/かつ重要度が低い など
- ◇ 服薬ノンアドヒアランス
- ◇ 依存
 - ニコチン依存

4. 高齢者

概略評価の観点

- 日常診療で頻度の高い症候や多数の健康問題を有する高齢者に対して、特有のライフサイクルと虚弱化を踏まえた適切な対応ができるかを評価する。
 - ✓ 適切な対応とは、本人の思いや QOL、心理的問題、社会的問題、患者背景および、家族の思い、介護問題に関する情報収集を行い、本人と共に家族や介護者、介護・福祉と連携し、地域の資源を活用し、患者個別の目標を目指したケア方針の決定、その際の適切なコミュニケーション能力、継続的な「包括的統合アプローチ」を含んだ対応を指す。

取り扱う疾患・症候及び対応

- 症候
 - 排尿障害・失禁、食欲不振、嚥下障害・誤嚥、体重減少、転倒、せん妄、廃用、低栄養、ポリファーマシー、物忘れ（認知機能障害）、BPSD、生活の破綻、閉じこもり・引きこもり、脱水、褥瘡、腰痛、老衰、抑うつ
- 対応
 - 寝たきり患者への対応、家族の介護負担への対応、成年後見制度、ケアカンファレンス（担当者会議）、家族カンファレンス、終末期ケア・緩和ケア、専門医との連携、訪問看護との連携、家族・介護・福祉との連携、予防介入（ワクチン、検診・健診、転倒予防、廃用予防、介護予防を含む）、独居、老老介護・認認介護、経済的問題、虐待、施設におけるケア、訪問診療の適応と導入、在宅看取り、事前指示（ACP）、入院のメリット・デメリットの査定、退院支援

5. 心理社会

概略評価の観点

- 日常診療で頻度の高い心理的問題や健康の社会的決定因子に関わるような社会的問題を抽出し、患者と対応について相談しながら、必要に応じて薬物療法の提案ができるかを評価する。

取り扱う疾患・症候及び対応

- 疾患及び対応
 - 心理的問題
 - ◇ うつ病（産後うつを含む）など気分障害の診断と双極性障害や統合失調症の除外
 - ◇ 不眠の診断、睡眠衛生指導
 - ◇ 適応障害の診断、マネジメント
 - ◇ 不安障害等の診断、マネジメント（全般性不安障害、社会不安障害、パニック障害、強迫障害、PTSD、など）
 - ◇ 身体表現性障害
 - ◇ 摂食障害の診断、紹介の必要性の判断
 - ◇ アルコールや薬物など物質関連障害
 - ◇ 身体化の診断、マネジメント
 - ◇ 広範性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、人格障害の診断、紹介の必要性の判断
 - 社会的問題
 - ◇ ストレス、労働問題、社会的格差、社会的排除など
- 対応
 - Difficult patient encounter（DPE）

患者の特性や状況を加味し、逆転移などの自身の感情も認識しながら、対応できる。

 - ◇ 患者要因：怒り、防衛的、恐怖、拒否的な患者、操作してくる患者、悲嘆のある患者、頻繁に受診する患者
 - ◇ 状況要因：言語やリテラシーの問題、複数人が診察室にいる、Bad News Telling

6. 小児

概略評価の観点

- 日常診療で頻度の高い小児の健康問題、疾患・症候に関して、小児の年齢・発達段階により、疾患の頻度が変わることを想定しながら適切に診療し、適切なタイミングで小児科医へコンサルトできるかを評価する。
 - ✓ 適切に診療するとは、医学的に妥当な診断のもと、保護者の生活状況（社会-職場・家庭、家族、個人の要因-友人関係）や患児の生活状況（社会-集団保育・学校、家族、個人の要因-友人関係）を考慮し、その状況に理解を示しつつ、検査・治療・対処方法の提案ができることを指す。

取り扱う疾患・症候及び対応

- 疾患・症候
 - 急性疾患：上気道炎、中耳炎、副鼻腔炎、胃腸炎、ウイルス性発疹症、肺炎、尿路感染症、髄膜炎、腸重積症、熱性けいれん、無熱性けいれん（てんかん）、気管支喘息発作、アナフィラキシー、頭部打撲
 - 慢性疾患：鉄欠乏性貧血、生活習慣病（肥満、糖尿病、脂質代謝異常）、心身症、起立性調節障害
 - その他：乳児湿疹、乳児喘息、便秘症、気管支喘息コントロール、アレルギー性鼻炎・結膜炎、アトピー性皮膚炎、川崎病、児童虐待
- 対応
 - 予防接種：予防接種スケジュール、接種啓発/相談
 - 乳幼児健診：栄養評価（離乳食、通常食）とその指導、運動・精神発達遅滞、難聴・視力障害・齲歯・ダウン症候群を疑い紹介する、育児支援とその指導、虐待の評価
 - 各種相談：不登校、いじめ、二次性徴に関する問題、性に関する問題、社会（家族、学校など）とのつながりに関する問題
 - 小児慢性疾患の成人移行（トランジエント）：アレルギー疾患（気管支喘息、鼻炎・結膜炎、アトピー性皮膚炎）、生活習慣病など

7. 救急

概略評価の観点

- 日常診療で遭遇する頻度が高く、緊急性が高い症候・疾患に対して、バイタルサイン・病歴・身体所見などから緊急性を判断し、患者の心理社会背景を考慮しながら、適切な対処・検査・治療が提案・実行できるかを評価する。
 - 全体として、適切な診断ができる診断アウトカムとそれに応じた疾患管理のアウトカム両方を評価する。
 - セッティングは診療所や小規模病院などの医療機関での救急対応である。

取り扱う疾患・症候及び対応

● 疾患・症候

- 頭部顔面：脳卒中、症候性てんかん、失神、くも膜下出血、慢性硬膜下血腫、髄膜炎、緑内障、急性めまい症候群、偏頭痛、頭部外傷、鼻出血
- 胸部：大動脈解離、肺塞栓症、腹部大動脈瘤切迫破裂、気胸、心筋梗塞（STEMI・NSTEMI）、狭心症、急性心不全、肺炎、COPD 急性増悪、喘息、PSVT、心房細動頻脈、高度房室ブロック、誤嚥性肺炎、RS による細気管支炎
- 腹部：虫垂炎、急性膵炎、胆嚢炎、消化管穿孔、腸閉塞、消化管出血（上部・下部）、SMA 塞栓症、肝性脳症
- 全身：DKA、高血糖高浸透圧症候群、低血糖による意識障害、甲状腺クリーゼ、副腎クリーゼ、急性腎不全、高カリウム血症、高カルシウム血症、低ナトリウム血症、好中球減少性発熱、重度の貧血、高血圧症
- 整形/皮膚：大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折、偽痛風発作、急性腰痛症、橈骨遠位端骨折、肘内障、顔面帯状疱疹、熱傷、褥瘡、蜂窩織炎、蕁麻疹、伝染性膿痂疹、感染性粉瘤
- 耳鼻咽喉：扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎、インフルエンザ
- 泌尿器婦人科：子宮外妊娠、卵巣嚢腫茎捻転、乳腺炎、妊婦さんの風邪、尿閉、肉眼的血尿、尿管結石、尿路感染症
- その他：敗血症、アナフィラキシーショック、薬物過量服薬、急性アルコール中毒、熱中症

● 対応

- 後方病院への転院相談
- 入院や転院に際して患者や家族への適切な対応
- 看護師や他職種への指示